

# 入賞作品紹介

①

## 小学生の部親子賞 入選

### 親の姿を見て学ぶ

郡山市 石井 陽南乃さん  
柴宮小4年

私の父や母は、朝起きると、まず初めに必ず新聞を取りに行きます。私はそれを毎日見ているせいか、自分が早起きした時は、勝手に体が動き、新聞を取りに行ってしまう。毎朝の父や母の行動を見てみると、新聞ってそんなに面白いのかな、と不思議に思っていました。

ある日、母に「新聞って見る？」と聞かれ「

見る」と思いました。しかし母は、「へえ、そうなんだ。すごいね」とほめてくれました。「新聞は自分なりの楽しみ方があるから、どこを見たいかいいんだよ」と教えてくれました。私はその日から、新聞をもう少し詳しく見てみよう、と思うようになりました。

たまに昔の新聞を見かけることがあります。白黒で文字ばかりで、とてもむずかしい感じがして、それに比べて今の新聞は、写真がたくさんあり、カラーのページも多くて、とても見やすいと感じます。特に、大きな写真が出ていると、「何だろう」ときょう味を持

ち、記事を読んでみるようになりましした。新聞は、社会の中のすべてのニュースがのっているんだなと、新聞のすばらしさに気がつくことができました。これからは新聞の新しい楽しみ方を見つけたいと思っています。

### 親の背中を見て育つ

母 石井 美香さん

静寂な空気の中、夜明けと同時に配達される。今朝も新聞が届いた。今朝が来た事を実感する。雨の日も雪の日も、どんな日でも必ず届く新聞は本当にすごいと感じます。半面、新聞が休みするの日は、どこか寂しい感じがする。

私にとって新聞は、幼い頃から共に歩んできた。とても大事な存在だ。毎朝必ず熱いお茶を飲みながら新聞を読んでいた。父の姿を思い出す。小学生の頃、クラス新聞を作成するのに、本物の新聞を参考にしたくて、何度も熟読した事。中高生、受験勉強の為、週に一度掲載される問題集を楽しみに頑張った。大人になり、職場の宣伝で、顔写真付きで記事が載ったり、わが子の写真や名前が載ったり。父が亡くなった時も、おくやみの欄を自分の目でしっかりと確認した。新聞はもはや、私の生活の一部で、重要な情報源となっている。それぞれの年代で違った役割を果たす新聞。視点を変えて見ると、新しい発見があったりする。活字離れが深刻化している現代で、新聞は年々進化している。昔よりもカラーや写真が増加し、読み手の興味を引くようになった。わが子に新聞は見るかと聞くと、テレビ欄、四コマ漫画は見る、と言った。私はそれがいいと思う。私もかつてはそうだった。毎朝父が新聞を読む姿を見て、何がそんなに面白いのか、と黙っていた。しかし、徐々に新聞の面白さが気が付く。導入は何でもいい。とにかく自分なりに新聞を読み、大切な事に気付いてほしい。新聞という画期的な情報源を、次世代の子どもたちに伝承していく事が、私たちが親の務めなのかな、と思っている。さあ、明日も熱いお茶を片手に、新聞を読もう。

読む知る学が E! 新聞